



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年2月7日

上場会社名 WDBココ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7079 URL https://www.wdbcoco.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷口 晴彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 藤原 素行 (TEL) (03)5144-2250
 四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,704	—	403	—	390	—	254	—
2019年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	126.70	120.58
2019年3月期第3四半期	—	—

- (注) 1 当社は、2019年3月期第3四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2019年3月期第3四半期の数値及び2020年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
- 2 当社は2019年11月3日付で普通株式1株につき100株の割合で、株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。
- 3 当社は2019年12月25日に東京証券取引所マザーズ市場に上場したため、2020年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から2020年3月期第3四半期会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 一百万円 2019年3月期 一百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,649	1,185	71.8
2019年3月期	1,020	656	64.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,185百万円 2019年3月期 656百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	6,350.00	6,350.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	34.00	34.00

- (注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
- 2 当社は、定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日として定めておりますが、当事業年度においては期末配当のみとする予定であります。また、当社は、2019年11月3日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期の配当金については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2020年3月期の業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,182	22.5	402	19.1	391	15.8	262	10.8	126.30

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年3月期3Q	2,285,000株	2019年3月期	20,000株
② 期末自己株式数	— 株	2019年3月期	— 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2,008,291株	2019年3月期3Q	— 株

（注）当社は、2019年3月期第3四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2019年3月期第3四半期の期中平均株式数の記載を行っておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（1株当たり四半期純利益に関するご注意）

2019年11月3日に普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っており、当該株式分割を反映した期中平均株式数を基に1株当たり四半期純利益を算定しております。

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が顧客とする日本国内の製薬業界においては、人口増加や国民皆保険制度等に支えられ大きく成長してまいりましたが、市場を取り巻く環境は昨今、大きな変化を迎えております。

AIやビッグデータといったデジタル化技術や、遺伝子治療や細胞医療などの医療技術の実用化を迎えるとともに、医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドラインの適用といった法令順守体制の整備・強化が求められるようになり、製薬企業が持続的に成長していくうえで大きな転機を迎えております。

さらに、少子高齢化を背景とした社会保障費の抑制機運の高まりに伴い薬価制度の抜本改革のもとで薬剤費抑制政策が加速するとともに、政府方針で定められた後発医薬品使用促進が進み、製薬企業の収益構造が大きく変化をしております。

そのため、製薬企業においては創薬業務を含む全てのコストを極力減らし、低コスト体質を持った企業に向けてドラステックな体制変革を検討している企業が多く、今後もCROへの委託ニーズは引き続き高いと考えております。

このような状況の中、当社は、「仕事の成果の保証」と「新しい価値の提供」を通じて、お客様の課題を解決し、医療の未来に貢献することを経営理念として掲げ、製薬会社の医薬品開発における受託業務として「安全性情報管理サービス」を主軸に、「ドキュメントサポートサービス」、「開発サポートサービス」、「臨床開発支援サービス」を展開しております。

安全性情報管理サービスにおいて、仕掛品が売上計上されたこと、安全性情報管理サービス、ドキュメントサポートサービスにおいて、前事業年度第2四半期以降に新規受注した案件が継続していること、臨床開発支援サービスにおいて新規受注案件が開始したことにより、売上高は1,704百万円、営業利益は403百万円、経常利益は390百万円、四半期純利益は254百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第3四半期累計期間末における流動資産は1,470百万円と前事業年度末と比べ514百万円(53.8%増)の増加となりました。これは主として新規上場等による現金及び預金の増加445百万円によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期累計期間末における固定資産は179百万円と前事業年度末と比べ115百万円(179.0%増)の増加となりました。これは主として本社移転に伴う有形固定資産の増加41百万円、敷金の増加による投資その他の資産の増加73百万円によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期累計期間末における流動負債は407百万円と前事業年度末と比べ83百万円(25.9%増)の増加となりました。これは主として人員増加による買掛金の増加13百万円、賞与引当金の増加24百万円、本社移転に伴うフリーレント期間(6ヶ月)の家賃相当額の計上による未払金の増加32百万円によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期累計期間末における固定負債は57百万円と前事業年度末と比べ16百万円(41.9%増)の増加となりました。これは主として本社移転に伴う資産除去債務の増加10百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期累計期間末における純資産は1,185百万円と前事業年度末と比べ528百万円(80.5%増)の増加となりました。これは主として新規上場に伴う資本金及び資本準備金の増加401百万円、四半期純利益による繰越利益剰余金の増加254百万円と配当による減少127百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間の業績は、営業利益、経常利益、四半期純利益については高い進捗率を示しております。当第4四半期においては、未執行であった経費の発生、受託業務の業務効率化の促進を行う人員増加や管理部門の人員増加による人件費の増加、外形標準課税適用による租税公課の増加を見込んでいます。このような状況のもと、業績予想につきましては、2019年12月25日の「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想を変更いたしません。

なお、当該業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	496,434	942,287
売掛金	430,714	498,850
たな卸資産	16,982	832
その他	12,097	28,495
流動資産合計	956,228	1,470,465
固定資産		
有形固定資産	10,385	51,867
投資その他の資産	53,868	127,408
固定資産合計	64,253	179,276
資産合計	1,020,482	1,649,741
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,420	45,695
未払法人税等	61,728	78,051
賞与引当金	59,593	84,132
受注損失引当金	9,645	5,009
その他	160,036	194,213
流動負債合計	323,424	407,102
固定負債		
退職給付引当金	37,276	42,072
資産除去債務	721	11,398
その他	2,442	3,929
固定負債合計	40,440	57,400
負債合計	363,865	464,503
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	250,583
資本剰余金	50,000	250,583
利益剰余金	556,617	684,072
株主資本合計	656,617	1,185,238
純資産合計	656,617	1,185,238
負債純資産合計	1,020,482	1,649,741

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

	(単位：千円)
	当第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	1,704,035
売上原価	1,033,406
売上総利益	670,629
販売費及び一般管理費	267,100
営業利益	403,528
営業外収益	
受取利息	2
営業外収益合計	2
営業外費用	
支払利息	16
株式公開費用	6,548
株式交付費	6,069
営業外費用合計	12,634
経常利益	390,896
特別損失	
固定資産除却損	408
移転費用	13,927
特別損失合計	14,336
税引前四半期純利益	376,559
法人税、住民税及び事業税	122,598
法人税等調整額	△492
法人税等合計	122,105
四半期純利益	254,454

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年12月25日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。上場にあたり、2019年12月24日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）による新株285,000株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ200,583千円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が250,583千円、資本準備金が250,583千円となっております。